

長府博物館所蔵貨幣のデータベース化

櫻木晋一*・大内俊二*

地域における学問発展のためには、設置者が下関市である市立大学と市立博物館は機関として連携を保ちながら、研究・教育に当たるべきであると考え。このような観点から、2009年度は下関市立長府博物館が所蔵している小林家文書・河内家文書など、これまで目録が作成されていなかった史料群について、写真撮影と目録作成をおこない、その成果はすでに公表した¹⁾。これに続いて、本年度は同博物館が所蔵しており、整理が十分になされていない貨幣資料の分類・整理作業をおこない、データベースを作成することとした。貨幣史研究を専門とする櫻木は、これまでもイギリスのケンブリッジ大学フィッツウィリアム博物館²⁾や大英博物館³⁾資料のデータベース化作業をおこなった経験があり、長府博物館所蔵の貨幣資料についても同様の作業を試みることとした。しかしながら、同博物館では貨幣を収納する容器が不足しており、過去に数度の整理作業が不完全な形でおこなわれていたという経緯もあり、想像以上に今回のデータベース化の作業は難しいことが判明した。例えば、封筒や仕切りのある箱に入れている貨幣(写真1)が、どの

ような基準で分類されていたのかを現時点では判断できず、当方で勝手に分類した場合、当初の収納状態を復元できないことになるというジレンマに陥った。過去におこなわれた作業によって、博物館の収蔵管理システムであるエクセルに入力された枚数などの貨幣情報と対応できないものも存在しており、どのように整理を進めていくかについての最初の方針決定でつまづくことになった。さらには、新たな



写真1 箱に納められた古銭

収納容器の確保や収納方式も決めなければならず、本格的な分類作業に着手できないままに時間だけが経過してしまった。8月以降、筆者らが長府博物館に出向き、所蔵貨幣の分類・整理作業をおこないながら、収蔵のためのホルダー(写真2・3)も購入し、収蔵方法を確定し、今回の調査結果を基礎データとすることとして、調査を開始した。しかしながら、年度内の作業完了が望めないため、本報告では札のみにテーマを絞り、所蔵されている札のデータと、特徴的な点についてのみ若干の解説をおこなうこととする。具体的には、同博物館の主要な寄贈品である和田コレクションの藩札データと、山口県内の諸藩で発行された藩札について画像や数量などを表示することによって、

*下関市立大学

研究助成に対する中間報告としたい。

長府博物館の収藏品台帳はエクセルのファイルで管理されており、貨幣(金属貨幣・紙幣・絵銭など)については1,806点の収藏品が記載されている。この台帳から確認できることは、日本貨幣や中国貨幣(中世日本では中国貨幣が流通していた)のみならず、朝鮮貨幣の常平通宝やベトナム貨幣の景興通宝など諸外国の貨幣も含まれており、近世の豆板銀や一分銀などの銀貨についても数的には少ないものの所蔵されていることである。日本貨幣では寛永通宝が圧倒的に多く、大隅国加治木で鑄造された加治木銭や天保通宝も含まれている。中国銭では、北宋銭や明の永楽通宝など発行量の多かったものが多く含まれている。また、通貨ではないが、絵銭と呼ばれている銭の形をした

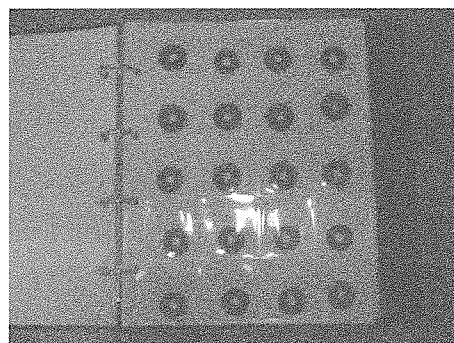


写真2 古銭のスクラップブック



写真3 藩札のスクラップブック

縁起物の製品や、正式な通貨に存在しない銭銘を刻んだ島銭と呼ばれるものも含まれていることを確認できる。ただし、この台帳は貨幣資料一点ごとに関するものではなく、どのような種類の貨幣が何点所蔵されているかといった詳細については確認ができない。従って、今後の調査を継続しておこなうことによって、長府博物館所蔵貨幣資料の全貌を明らかにしていく。来年度には、全点調査とそのデータ化を完成させたいと考えている。

まず、この台帳から判明することを簡単に述べる。収蔵貨幣の大半は、市民から寄贈されたものである。昭和26年4月に長府の垣田林左衛門氏から旧10円紙幣など3点が寄贈されているのを皮切りに、昭和46年4月長府の松尾康氏まで32名の方から寄贈を受けていることが確認できる⁹⁾。寄贈者の大半は現在の下関市在住者であるが、東京や北九州在住者の名前も存在する。この中でも当時三井東圧化学に勤務していた和田繁一氏のコレクションが、古銭と藩札などの紙幣類を合わせると558点と最も多く、当博物館所蔵の中心資料となっていることが分かる。

また当博物館では、重要文化財に指定されている長府鑄銭所跡にかかわる和同開珎を所蔵していることもあり、古代律令国家が発行したいわゆる皇朝十二銭について、残りの万年通宝以下11種類の銅銭を昭和61年に購入している。購入価格は11種類で190万円と記されている。従って、当博物館は皇朝十二銭についてはすべての銅銭を所蔵しており、

古代律令国家の貨幣を研究する上で貴重な資料となっている(写真4)。このように、一部の資料については購入資料であることが確認できた。

ここで、参考までにイギリスの貨幣収蔵方法を簡単に紹介する。筆者ら⁹⁾が留学したケンブリッジ大学フィッツウイリアム博物館で経験した貨幣資料の収蔵方法は、貨幣一点ずつにチケットと呼ばれる円形の札を付け、それに貨幣の種類と大きさや寄贈者・購入などの情報が書き込まれている(写真5・6)。1点の貨幣に対応して1点のチケットがあり、貨幣資料

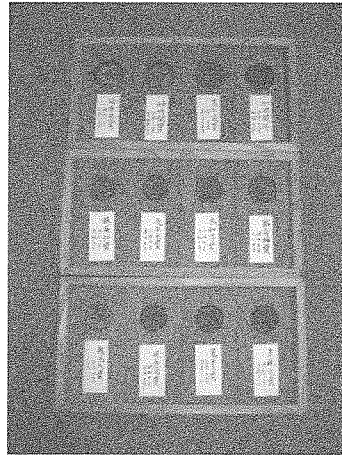


写真4 皇朝十二銭

を他のトレイに移動させる時などでも、貨幣とチケットは対になっているため、決して混同することがない仕組みになっている。また、トレイから出して博物館で展示される場合には、展示中というチップが入れられることになっている。

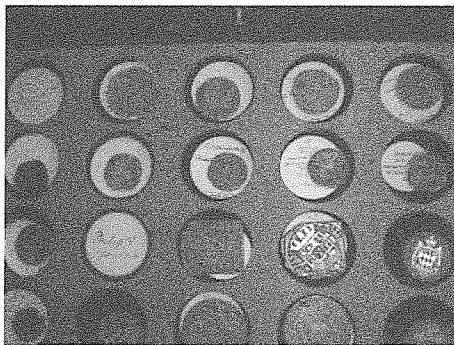


写真5 貨幣を収納したトレイ

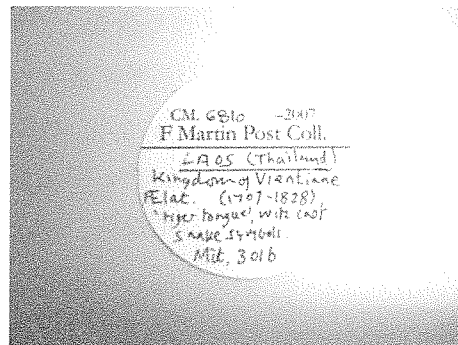


写真6 ラオス貨幣のチケット

トレイを収蔵する容器の中には、工芸品と呼べるような嗜好を凝らしたものも存在する(写真7・8)。しかしながら、フィッツウイリアム博物館においてもデータベース化という作業は、櫻木が留学した2001年頃からようやく始まり、それ以降も継続して作業に当たっており、櫻木もこれに協力した。現在では、同博物館所蔵日本貨幣についてもその一部がオンラインで検索できるようになっている(<http://www.fitzmuseum.cam.ac.uk/>)。長府博物館における貨幣資料データベースの公開は、今後の課題である。

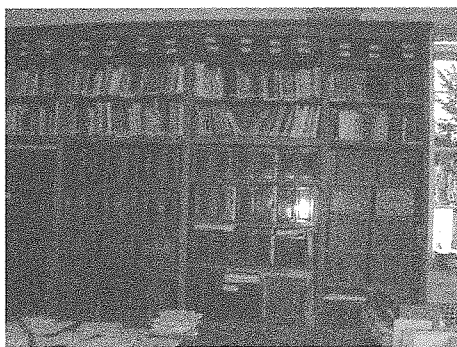


写真7 書籍の下の箱が通常の収蔵箱



写真8 工芸品としての収蔵箱

次に、藩札の収蔵品については主なものを表1で示す。和田コレクションの一部と山口県内の藩札資料、参考までに隣国豊前小倉の私札の写真を26～28頁に載せている。ここから分かるように、長府や萩、清末など山口県内の藩札については、地元資料ということで比較的種類も揃っている。また、貨幣そのものではないが、藩札を入れていた木製箱1点と札入れ(写真9・10)2点や財布なども所蔵している。写真9は「藩札ばさみ」と呼ばれており、現在使用されている革製札入れの元祖のようなものである。しかしながら、藩札が厚手の和紙で作られているため、折り曲げて財布に入れるのではなく、板に挟んで紐で巻きつけ、汚損を防止していたのである。資料としては重要視されていないと考えられるので、遺存するものが少なくなり、将来は貴重な資料になる可能性もある。

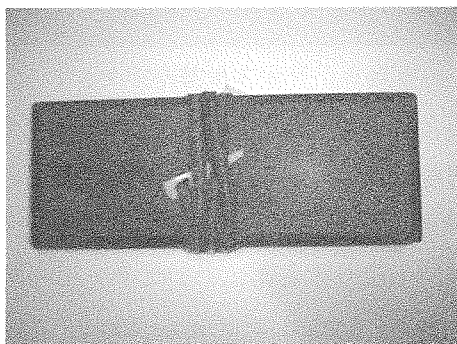


写真9 藩札ばさみ

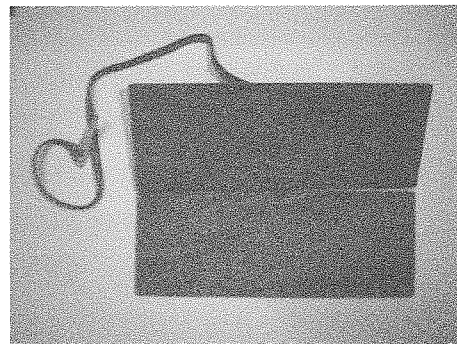


写真10 藩札ばさみ(開いたところ)

山口県内で発行された藩札について概説しておく。周知の通り、藩札は各藩が財政窮乏のために発行し、福井藩で発行した寛文元年(1661)のものを嚆矢とする⁶⁾。山口県内では、周防の岩国・徳山・山口と長門の萩・清末・長府(豊浦)・須佐で藩札が発行されている。『図録日本の貨幣』⁷⁾によると、長門萩藩札はどの年代のものも額面を異にするのみで、すべて同一寸法である。山口県内で藩札が最初に発行されたのは、延宝5年(1677)7月15日の銀

札であり、同年10月15日から通用を開始している。この延宝札の種類は、10匁・5匁・4匁・3匁・2匁・1匁・5分・4分・3分・2分の10種類である。一定期間、藩札使用が禁止されていたが、幕府の藩札解禁令により、享保15年(1730)に25年間通用の許可を得て一般に通用されるようになった。延宝札は江戸末期まで、同一様式で発行され、裏面に明和・安永・天保と改印がなされている。また、銀5匁から1匁札までが布袋図、5分札から2分札までは狸々図で、図案が同一であり、延宝年代の札としては小型である。岩国藩の延宝札は、本藩萩藩札の裏面中欄に楮幣銘を印刷したほかは本藩札を流用しており、表面に「岩国」の朱印、裏面に「寶」字印などの添印を押印してある。周防岩国藩では、続いて享保15年にも萩藩札の流用がおこなわれ、藩固有の様式の藩札は寛政4年(1792)に出されている。周防徳山藩では、享保16年から萩藩の延宝札に「徳」字印を押して発行し始めた。文政2年(1819)札は固有の様式札となっている。長門清末藩では、文久元年(1861)札1種のみ発行している。これは米札で、5升から2合までのものが存在する。裏面には銭価が書かれている。長門長府(豊浦)藩は発行年次が明らかでないが、安政2年(1855)といわれている。

次稿では、貨幣のデータベースを完成させ、個別貨幣の観察書兼についても明記し、当初の計画を実行したい。

1) 田口由香・発田恭弘・櫻木晋一「下関市立長府博物館所蔵近世文書の調査」『地域共創センター年報』vol.2、pp.17-46、2009年

2) 櫻木晋一「Japanese coins in the Fitzwilliam Museum, Cambridge」『下関市立大学論集』第45巻第2号、pp.21-33、2001年9月(Shinichi Sakuraki, Mark Blackburn)

大内俊二・櫻木晋一「Vietnam coins in the Fitzwilliam Museum, Cambridge」『下関市立大学論集』第51巻第1・2・3合併号、pp.115-126、2008年1月(Shunji Ouchi, Shinichi Sakuraki, Mark Blackburn)

3) Shinichi Sakuraki, Helen Wang, Peter Kornicki 『Catalogue of the Japanese Coin Collection(pre-Meiji) at the British Museum』The British Museum, 2010

4) 寄贈者で確認できる名前は、長府・重井利雄、長府・福原ツル、北九州・宮本智郷、長府・田中肩行、楠・長田幸祐、長府・飴谷朝一、山口・内田伸、北九州・宇都宮治部、東京・梶間秋介、長府・丸尾ツル、小月・木村英亮、長府・友田ユキなど。

5) 櫻木は2001年4月から1年間、大内は2006年4月から1年間、フィッツウィリアム博物館コインズ&メダルズに留学していた。

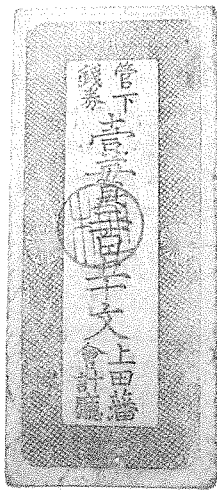
6) 近年では、1630年に備後福山藩で銀札・銭札の発行が認定されている。

7) 日本銀行調査局『図録日本の貨幣』2、東洋経済新報社、1973、日本銀行調査局『図録日本の貨幣』5、東洋経済新報社、1974

表1 長府博物館所蔵札

	国	藩	額面	発行年	寸法(タテ×ヨコ)	備考	図版No.
1	信濃	上田	銭624文	明治3年(1870)	8.4×3.5	和田コレクション	
2	"	"	銭200文	明治3年8月	7.5×8.1	"	
3	"	"	銭1250文	明治3年	9.2×4.0	"	1
4	"	"	銀15匁	"	10.4×4.2	"	
5	"	松代	金1分	明治3年3月限	10.5×3.6	"	
6	"	"	金2朱	"	9.5×3.5	"	
7	上野	七日市	銭200文	明治	10.1×3.5	"(裏白紙)	
8	安房	花房	銭624文		9.2×3.5	"	
9	三河	長沢	銭500文	享保15年	12.9×4.4	"	
10	"	"	銭100文	"	11.6×3.9	"	2
11	"	"	銀2分	"	14.0×2.8	"	
12	"	"	銀3匁	"	16.3×4.4	"	
13	"	"	銀1匁	"	16.1×3.6	"	
14	"	"	"	"	16.2×3.6	"	
15	"	"	"	"	16.2×3.6	"	
16	"	"	"	"	16.2×3.2	"	
17	"	"	銀3分	"	14.4×2.8	"	
18	"	"	"	"	14.2×2.9	"	
19	"	"	"	"	13.8×2.9	"	
20	"	"	銀2分	"	14.0×2.8	"	
21	"	"	"	"	14.3×2.8	"	
22	"	"	"	"	14.1×2.7	"	
23	"	"	銀1匁	享保15年	16.3×3.0	"	
24	"	"	"	"	15.8×2.9	"	
25	丹波	柏原	銀1分5厘		12.5×3.8	"	
26	"	"	銀5厘		10.0×2.8	"	3
27	"	"	"		10.0×2.8	"	
28	摂津	尼崎	銀3分	文政10年	18.0×4.1	"	
29	"	"	銀1分	"	19.1×4.6	"	
30	"	麻田	銀1匁		15.5×4.5	"	
31	大和	芝村	銀1匁	延享2年5月	17.1×3.5	"	4
32	"	"	"		16.7×3.9	"	
33	"	櫛羅	銀1匁		15.3×3.6	"	
34	"	郡山	銭100文	明治元年	14.9×4.0	"	
35	"	柳本	銀1匁(白色)	天保9年8月	14.5×3.5	"	
36	"	"	銀1匁(赤色)	天保9年	14.4×3.5	"	
37	"	田原本	銀1匁	寛保2年9月	16.7×4.2	"	
38	"	"	"	"	16.6×3.9	"	
39	伊勢	桑名	銀1匁		16.3×3.0	"	
40	"	津	銀1匁	文化11年	16.1×2.9	"	
41	"	"	"	"	15.9×2.9	"	
42	"	"	"	"	16.2×2.9	"	
43	"	"	"	"	16.2×2.9	"	
44	"	"	"	"	16.2×2.9	"	
45	"	"	銀2分	"	16.0×2.9	"	
46	"	"	銭100文		12.9×3.4	"	
47	丹波	亀山	銀1匁	元治元年	16.4×2.9	"	
48	伊勢	神戸	銀5分		15.8×2.9	"	
49	下野	壬生	銀1匁	安政	14.1×4.4	" 飛地(大和・播磨)	
50	"	"	"		14.7×4.5	"	
51	播磨	姫路	50文目	天保8年	15.0×5.7	"	
52	"	"	10文目	"	15.2×5.4	"	
53	"	"	1文目	"	15.4×4.1	"	
54	"	"	2分	"	11.7×3.3	"	
55	"	"	1分	"	10.7×3.0	"	
56	長州	長府(豊浦)	米5升(500文)		14.2×4.1	山口県内資料	5
57	"	"	米3升(300文)		13.9×4.0	"	

58	〃	〃	米2升(200文)		14.8×4.0	〃	6
59	〃	〃	〃		14.7×4.0	〃	
60	〃	〃	米1升(100文)		14.3×4.0	〃	7
61	〃	〃	米3合(30文)		14.3×4.1	〃	8
62	〃	〃	〃		14.7×4.0	〃	
63	〃	〃	米2合(20文)		14.3×4.1	〃	
64	〃	〃	〃		14.3×4.0	〃	
65	〃	清末	米2合(20文)	文久元年	13.1×3.8	〃	9
66	〃	長府(豊浦)	米2升(200文)		14.5×4.1	〃	
67	〃	〃	米1升(100文)		14.4×4.0	〃	
68	〃	〃	〃		14.7×3.8	〃	
69	〃	〃	米3合(30文)		14.4×4.0	〃	
70	〃	〃	〃		14.4×3.9	〃	
71	〃	〃	〃		14.0×4.0	〃	
72	〃	〃	〃		14.4×3.9	〃	
73	〃	長府(豊浦)	米2升(200文)		14.7×4.0	〃	
74	〃	〃	米3合(30文)		14.4×4.0	〃	
75	〃	〃	米2合(20文)		14.0×4.0	〃	
76	〃	長府(豊浦)	米1斗(1貫文)		14.2×4.0	〃	10
77	〃	〃	米2升(200文)		14.2×4.1	〃	11
78	〃	〃	米1升(100文)		14.0×3.9	〃	12
79	〃	萩	10匁		15.1×3.7	〃	13
80	〃	〃	〃		14.9×3.6	〃	
81	〃	〃	〃		14.8×3.6	〃	
82	〃	〃	5匁		14.9×3.7	〃	14
83	〃	〃	〃		14.8×3.6	〃	
84	〃	〃	4匁		14.7×3.5	〃	15
85	〃	〃	3匁		14.9×3.6	〃	16
86	〃	〃	1匁		14.6×3.5	〃	17
87	〃	〃	5分		15.0×3.6	〃	18
88	〃	〃	〃		14.7×3.5	〃	
89	〃	〃	4分		14.3×3.5	〃	
90	〃	〃	3分		14.9×3.7	〃	
91	〃	〃	2分		14.6×3.5	〃	19
92	〃	〃	〃		14.4×3.4	〃	
93	〃	〃	〃		13.9×3.3	〃	
94	周防	徳山	1匁(80文)	文政2年	15.2×4.6	〃	20
95	〃	〃	2分(16文)	〃	15.3×4.6	〃	21
96	豊前	小倉	30文	天保14年	15.5×4.3	私札(柏屋・新屋)	22
97	〃	〃	1匁	天保6年	17.1×4.3	〃(飴屋)	23



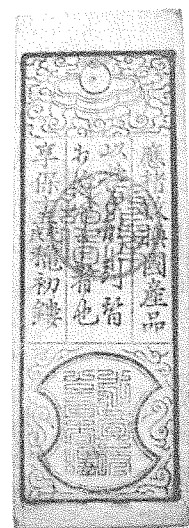
1. 上田 銭1250文 (表)



1. 上田 銭1250文 (裏)



2. 長沢 銭100文 (表)



2. 長沢 銭100文 (裏)



3. 柏原 銀5厘 (表)



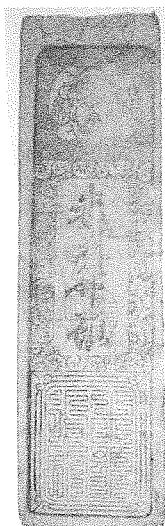
3. 柏原 銀5厘 (裏)



4. 芝村 銀1匁 (表)



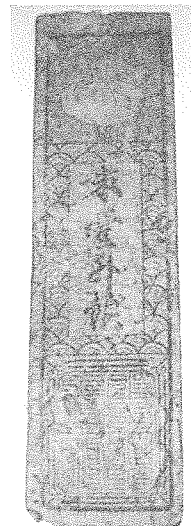
4. 芝村 銀1匁 (裏)



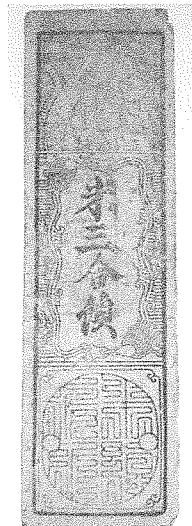
5. 豊浦 5升 (表)



6. 豊浦 2升 (表)



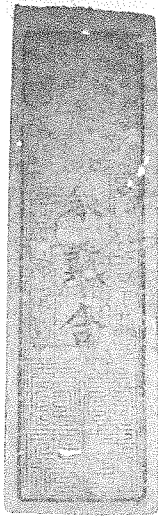
7. 豊浦 1升 (表)



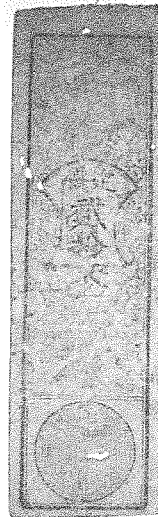
8. 豊浦 3合 (表)



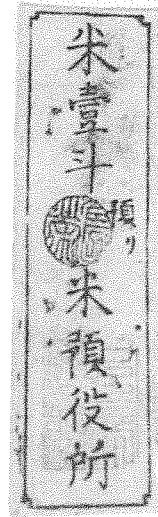
8. 豊浦 3合 (裏)



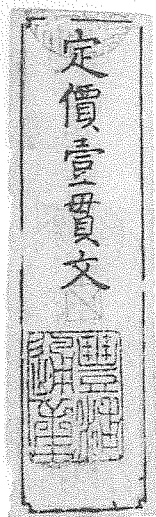
9. 清末 米2合 (表)



9. 清末 米2合 (裏)



10. 長府 米1斗 (表)



10. 長府 米1斗 (裏)



11. 長府 米2升 (表)



12. 長府 米1升 (表)



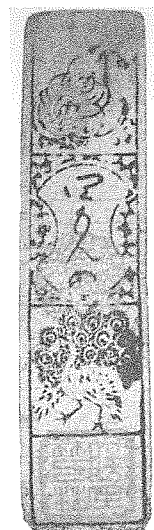
13. 萩 10石 (表)



13. 萩 10石 (裏)



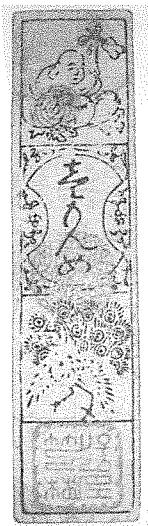
14. 萩 5石 (表)



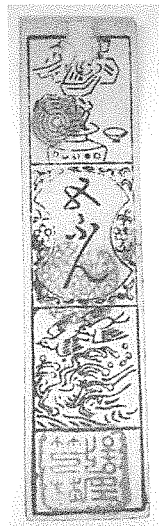
15. 萩 4石 (表)



16. 萩 3石 (表)



17. 萩 1匁 (表)



18. 萩 5分 (表)



19. 萩 2分 (表)



19. 萩 2分 (裏)



20. 徳山 1匁 (表)



20. 徳山 1匁 (裏)



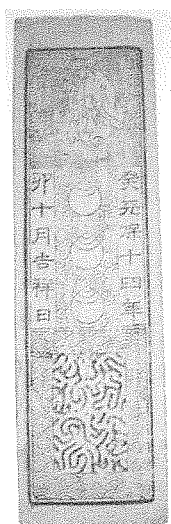
21. 徳山 2分 (表)



21. 徳山 2分 (裏)



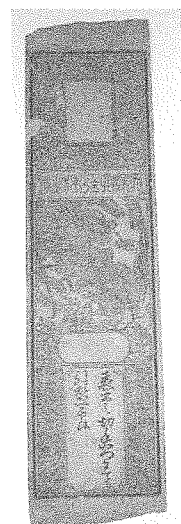
22. 小倉 柏屋 30文 (表)



22. 小倉 柏屋 30文 (裏)



23. 小倉 飴屋 1匁 (表)



23. 小倉 飴屋 1匁 (裏)